

令和6年度 JA都市農村交流全国協議会
視察・研修会

JA大井川の取組みについて

～食農教育や援農を通じた関係人口の拡大と国内外への食文化発信～

JA大井川 営農経済部
農業経営支援課 森脇陽亮

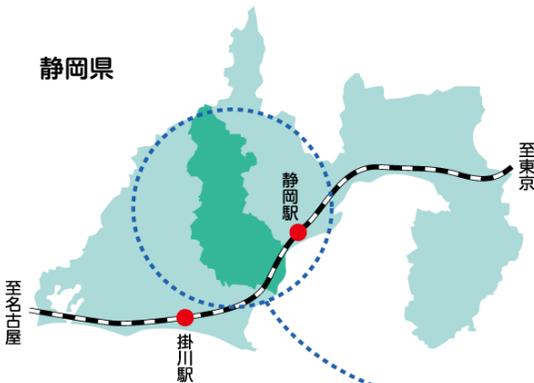
大井川地域の概要

地域資源

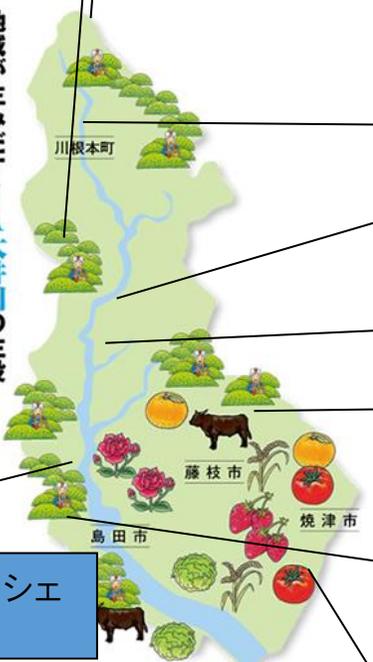


南アルプスユネスコエコパーク

日本農業遺産茶草葉農法



地域が生み出す J A 大井川の主役



奥大井湖上駅の絶景

フォーレなかかわね茶茗館

大井川鐵道のSL

日本庭園と茶・和食を楽しむ
玉露の里

学びと体験
ふじのくに茶の都ミュージアム

港で駿河湾の幸を味わう
小川港魚河岸食堂



大井川流域の玄関口、レストラン、マルシェ
KADODE OOIGAWA



大井川地域の概要

インバウンド・通過客の地域滞留を目指すKADODE OOIGAWA

【JA大井川・島田市・大井川鐵道・NEXCO中日本の共同事業】

KADODE OOIGAWA:2021年11月オープン 体験型フードパーク(県内最大級のマルシェ・16種の緑茶飲み比べ・観光案内所)



大井川農泊推進協議会

概要

【大井川農泊推進協議会の設立目的】

・農業は大きく2つの流れ

①大規模化・効率化→スマート農業を導入した法人経営

②地産地消・高付加価値化→小さな農園でも工夫して経営

JAは「協同組合」→組合員が協同して活動する組織→②を進めることに存在意義
(例:農家が同じブランドで出荷し、大きなチェーン店に卸す、
ファーマーズマーケットを作り販売することなど)

・多様な農業経営の提案

衰退する地域農業をどのように守るか

→「農産物を作る」(農業)から「農業体験」(観光業)によって収入を得る
地域に人が流入し、地域存続にもつながる

・JA大井川の事業計画

農業振興についてのみの内容から転換

○賑わい交流拠点の整備 ○農泊推進事業の取組み

農・食に興味をもつ人々のニーズを取り込む

観光業からではなく農業側からアプローチ

大井川農泊推進協議会組織概要

実行組織

大井川農泊推進協議会 体制図（令和6年6月改定案）

<総会>

会長
副会長
監事
(会員代表)

<会員>

農泊プログラム提供者
・農家民宿・民泊等
・農業体験実施農家
・農家レストラン
その他伝統的な生活体験や地域との交流ができる施設等

- 【主な役割】
- 農泊受入れ
 - 体験プログラム造成・提供
 - 地域づくり参画 等

<連携団体>

大井川鐵道株式会社
株式会社大鉄アドバンス
株式会社農協観光
一社全国農協観光協会

<協議会事務局>

ふじさんグローバルデザインセンター
株式会社

- 【主な役割】
- 協議会の運営、PDCA管理
 - 事務・会計処理
 - 域内事業者のコーディネート
 - ツアーコンテンツ企画
プロモーションツール制作管理
 - マーケティング、営業

<協議会構成団体>

大井川農業協同組合
農業経営支援課

静岡県 志太榛原農林事務所
地域振興課

島田市
観光文化部 観光課

川根本町
産業振興課 農業室
観光交流課 観光交流室

島田市観光協会
川根本町まちづくり観光協会

KADODE OOIGAWA
株式会社

- 【主な役割】
- 窓口機能
 - 農業体験・食体験の開発
 - JA組織・地域生産者との調整 等

- 【主な役割】
- 農家民宿の促進支援
 - 農村資源のコンテンツ化 等

- 【主な役割】
- 農村振興、農泊・地域づくり
 - 農泊コンテンツ提供 等

- 【主な役割】
- 農村振興、農泊・地域づくり
 - 農泊コンテンツ提供 等

- 【主な役割】
- 地域情報のPR
 - 商工事業者との連携 等

- 【主な役割】
- イベント企画・実施
 - 地域農産物の加工品・食事メニューの開発および販売
 - 広報・営業 等

<オブザーバー>

藤枝市
観光交流政策課

焼津市
商工観光課

大井川農泊推進協議会

「農泊」の一例

【具体的な農業体験】

・闘茶体験 お茶の淹れ方教室



ティーテラス



共同調理(郷土料理)



農家民宿



大井川農泊推進協議会

活動内容

【訪日外国人の誘致する農泊地域の認定制度SAVOR JAPANに申請 認定(2020.12)】
 KADODE OOIGAWAを拠点に「日本茶と駿河湾の幸を味わう旅」をテーマに、良質な茶や多様な農産物、さらには駿河湾の海の幸を発信、観光客の来訪を促進し、農林漁業の振興と地域経済の活性化を図る

1. 日本食・食文化によるインバウンド誘致：SAVOR JAPAN

- 増大するインバウンドを、日本食・食文化の「本場」である農山漁村に呼び込み、訪日外国人の更なる増加と農林水産物・食品の輸出増大につなげるといった好循環を構築していくことが重要。
- 特に、農泊（農山漁村滞在型旅行）を推進している地域であって、多様な地域の食やそれを支える農林水産業、伝統文化の魅力で、訪日外国人旅行者を誘致する重点地域を農林水産大臣が認定し、SAVOR JAPANというブランドとして官民連携して農山漁村の魅力在海外に一体的に発信する制度を平成28年度に創設。
- 美味しい日本食が食べられるのは勿論、地域の食文化にも触れることができる旅先として、訪日外国人旅行者の誘致を強化中。

知ってもらおう、来てもらおう

①日本食・食文化の魅力発信



食べてもらおう、泊ってもらおう

②日本食・食文化の「本場」である農山漁村での訪日旅行者の受入体制の強化



買ってもらう

③訪日外国人への農林水産物の販売促進



大井川推進協議会 取組内容

文化庁「100年フード」「食文化ミュージアム」認定

【100年フード】

文化庁が、日本の多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、認定食を地域関係者や国が一体的にPRする制度。当協議会は、東海道の宿場町が多い大井川流域で地域のお茶と共に旅人をもてなしていたお茶請け食を「伝統部門」に申請し、2022年3月3日に認定。

【食文化ミュージアム】

文化庁が、食文化への学びや体験の提供に取り組む博物館や施設等に関する情報を一体的に発信する新制度。「食の体験・情報発信施設」に申請し、2022年3月3日に認定。



浜松市産産、文化観光局



伊豆山東産、文化観光局



大井川推進協議会 取組内容

農水省「食かけるプライズ」食かける賞受賞

【食かけるプライズ2023】

農林水産省は、2018年から「食かけるプロジェクト」の一環として、日本各地の食・食文化を深く知ることができる食体験を表彰する「食かけるプライズ」を実施してきました。2023年も「食かけるプライズ2023」の募集を行い、108件の応募の中から審査の結果、10件が受賞しました。(食かける大賞1件、食かける賞7件、ネクストブレイク賞2件)静岡県での唯一の受賞となります。

受賞コンテンツ「南アルプスの自然が育んだ天然肉狩猟ツアー」

大井川上流の川根本町は全域がユネスコエコパークに認定されています。その豊かな自然と澄んだ空気の中で、のびのびと育ったシカやイノシシの滋養に富んだ天然肉。その山の動物を捕らえて命を頂く伝統的な狩猟の「食×南アルプスの暮らし」を体験します。



大井川農泊推進協議会 取組内容

農泊地域の造成

都市から農山村の民家に泊まる修学旅行生など団体の需要に応えるため、団体客を受け入れることができる“農泊地域”を増やすことを目的に、地域資源が豊かな“地名地区”において説明会を実施。

対象：川根本町の民家に泊まりたいグループがある時に宿泊受入れにご協力いただける方（地名地区またはその周辺）

説明会に来ていただいた方、そのお知り合いの方などに訪問・個別説明や開業までを伴走支援を継続している（志太榛原農林事務所）



JA大井川 取組内容

教育旅行の受入れ

令和3年から3年連続で東京都武蔵野市立関前南小4年生プレセカンドスクールを受入れ「お茶」の学習に重点を置き、説明や案内はJA職員が行っている

コース: 日本一長い木造建築の橋「蓬莱橋」、「中條景昭像公園」→お茶の歴史
牧之原大茶園→お茶の栽培について

JA大井川茶業部金谷工場→お茶の加工流通について



JA大井川 取組内容

JA援農支援隊

農協観光の「JA援農支援隊」を積極的に受入れ

令和3年度 みかん収穫30名(2軒) イチゴ作業42名(5軒)

令和4年度 みかん収穫64名(5軒)

令和5年度 みかん収穫71名(7軒) イチゴ作業49名(5軒) レタス・キュウリ他10名

【派遣元】

農林中央金庫様 岡三証券様 全農様

中央大学ボランティアサークルC-habitat様 日本大学ボランティアサークルAla-N様



JA大井川 取組内容

JA援農支援隊

JA援農支援隊とは・・・

援農支援隊とは猫の手も借りたい時期に、無償で農作業をお手伝いするボランティアです。人手不足となる繁忙期の作業支援をしていただくボランティアを農協観光が募り、農作業のお手伝いによる生産維持や農産物のファンづくりを通じて、日本の農山漁村を応援します。援農を必要とする地域と援農を希望する法人を繋ぐ、援農マッチングの取組みです。



【生産者・地域が得られること】

- ① 人手不足の解消
(生産維持・拡大)
- ② 地域・農産物のPR
- ③ 一般消費者のニーズ把握
- ④ 地域やご自身のファンづくり
- ⑤ 関係人口の創出

【参加者が得られること】

- ① 生産者や地域への貢献 (お役立ち)
- ② 農作業にて得られる達成感
(やり甲斐)
- ③ 農業や食への理解向上
(国消国産志向)
- ④ 農業や地域との新たな繋がりづくり
(第2の故郷づくり)
- ⑤ 援農を通じた健康と癒し

JA大井川 取組内容

JA援農支援隊

ボランティア受入れの目的

- ・労働力確保
 - ・産地や農業の現場を知ってもらう事
- 副次的効果 農家・産地や農産物を応援したいという気持ち ビジネスへつなげる

2022年12月22日 (木)
日本農業新聞 掲載

2023年2月24日
日本農業新聞 掲載



静岡・JA大井川 ミカン収穫に助っ人

「物にあつて経済が回る。普段の業務とは違つて、農産物を扱う生産者の仕方や気持ちを理解するのは大変」と話した。

受け入れの目的で同隊員の天畑さんは「自分も工夫して配置し、作業する意義的な参加者が多く、作業がはかどつていると話した。

同JAは、同事業で受け入れ農家の募集をし、個別面談で作業環境の確認や改善の提案をするなど、ボランティア受け入れが円滑に進むようにサポートしている。今年は、収穫作業のポイントや注意事項について動画を作成、参加者が事前に動画を閲覧することで作業のイメージを持ってもらおう狙い。

同JA農業経営支援課の森脇啓俊部長は「5年目の今年には、昨年参加した人がリーダーとして動くなど、効果も良くなつていて、来年度以降も企業と農家の交流を促した事業を継続して進めたい」と話した。

(静岡・大井川)

援農ボラ受け入れ拡大

静岡県JA大井川は、2021年から取り組むJA援農支援隊事業を拡大している。昨年は、1社から30人のボランティアをミカン農家が受け入れたが今年はその数から60人を5月が受け入れる期間中は1、23日の日程で

面談や動画で作業しやすく

同事業では、同JA果樹林産センター（かんきつ）部、即金の天畑孝広さんが、同JA大井川として農林中央金庫の人員を受け入れた。参加者は、大畑さんや妻の由衣さん、かみかんの選手などの果樹ミカンの詰め方を教わり、分組して作業を進めた。同JA果樹林産センターの新安室社長は

定期配送便に青島温州

静岡・JA大井川 生食用に新たな販路

静岡県のJA大井川は、農産物の新たな販路として規格外野菜の詰め合わせを定期配送するサービス「ロスヘル」への出荷を始めた。選果場の検査で市場出荷を見合わせた規格外品をまとまった量で出荷することで、有利販売につながる。同JAが運営するサービス。味には問題がないのに、傷や形が不ぞろいなどの理由で一般的な食品売り場に並ばない規格外野菜を全国

同サービスの導入は、同JAが行った農業現場と農業研修をした企業の人材を結び

付ける「JA援農支援隊事業」で、ミカンの収穫を体験した農林中央金庫職員の紹介がきっかけだった。

これまでは、味は劣らないが傷や浮き皮などの外観検査ではねたミカンは近隣小売業者に低単価で販売するか、ジュース原料としていた。同サービスに出荷することで、生食用として現状より高い単価で数量も多く販売することができる。

初回は温州ミカン「青島温州」150箱を出荷した。出荷前には、同社の社員3人が藤枝市の同JA果樹林産センターを訪れ、同センターの澤

他の農産物にも

本順也センター長の説明を聞き、出荷用ミカンや集荷場の様子などを確認した。ミカンを第1強とし、今後は数量を確保できる共販出荷品を中心に、その他の農産物でも対応する予定。

同JA営農経済部の寺坂雅俊部次長は「新たな販路として、組合員の出荷物の有利販売につなげたい」と話した。

(静岡・大井川)



出荷ミカンの説明をする澤本センター長④

JA大井川 取組内容

収穫体験の販売

農産物の「収穫体験」を商品としてネットショップで販売

目的:①消費者が農業を知るきっかけ 食育

②農家の所得(収穫の手間省略・選別せずに全て販売できる)

令和4年度 さつまいも

令和5年度 うめ 玉ねぎ さつまいも みかん で実施

ほぼすべての回で完売している

みかんではその場で生搾りジュースも提供



JA大井川 取組内容

収穫体験の販売



JAおおいがわ

さつまいも 収穫体験

令和5年10月15日(日)予備日22日
①10:00～ ②13:30～
各時間帯15区画販売

会場:島田市神座 品種:紅はるか
1区画(10株) 2,000円
持ち帰りのおいもは5KG保証
複数区画も購入可。

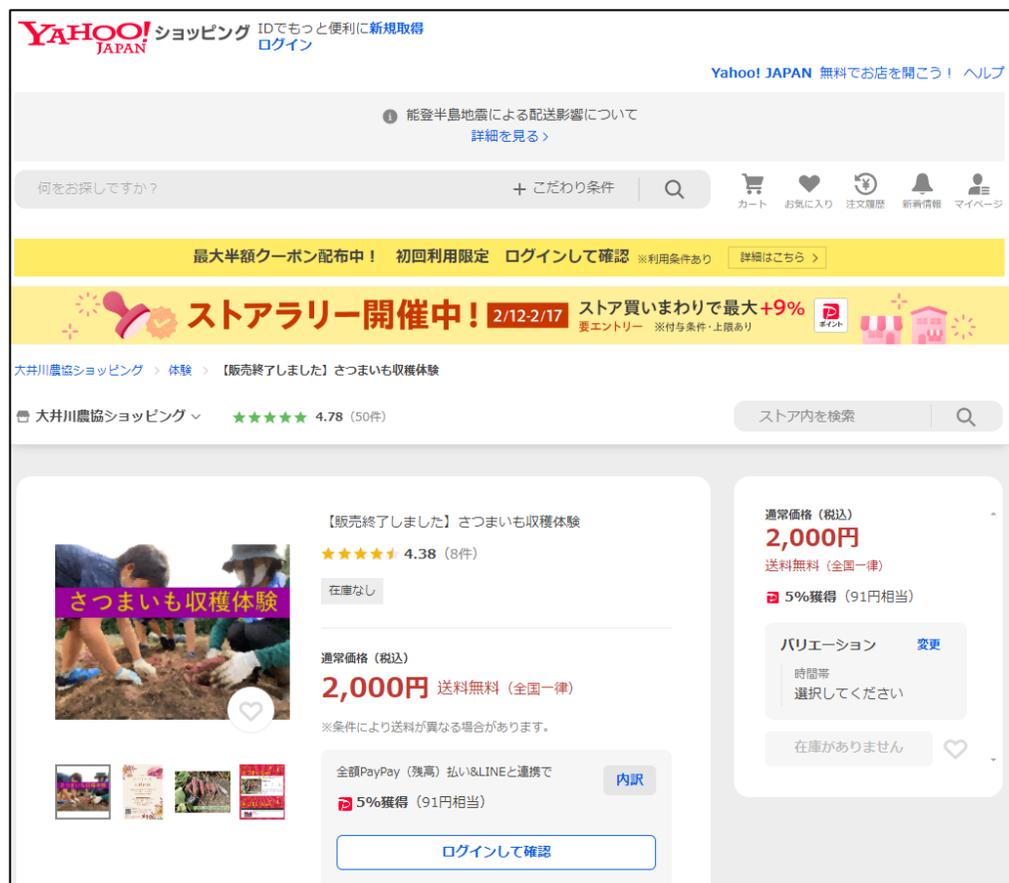
JA大井川ネットショップ
【詳細・参加方法】
JA大井川ネットショップにて詳細をご確認の上、参加チケットをご購入ください。
当日は購入者リストにて受付します。



問合せ先
JA大井川 営農経済部農業経営支援課
電話 054-646-5127



ネットショップで収穫体験をパッケージで販売することで、予約受付と代金回収を簡略化
JAから体験代金をまとめて農家に支払い



YAHOO! JAPAN ショッピング IDでもっと便利に新規取得 ログイン

Yahoo! JAPAN 無料でお店を開こう! ヘルプ

能登半島地震による配送影響について 詳細を見る>

何をお探ですか? + こだわり条件 | 🔍

カート お気に入り 注文履歴 新着情報 マイページ

最大半額クーポン配布中! 初回利用限定 ログインして確認 ※利用条件あり 詳細はこちら>

ストアラリー開催中! 2/12-2/17 ストア買いまわりで最大+9% 要エントリー ※付与条件・上限あり

大井川農協ショッピング > 体験 > 【販売終了しました】さつまいも収穫体験

大井川農協ショッピング 4.78 (50件) ストア内を検索 🔍

【販売終了しました】さつまいも収穫体験
★★★★★ 4.38 (8件)
在庫なし

通常価格(税込)
2,000円 送料無料(全国一律)
5%獲得(91円相当)

バリエーション 変更
時間帯
選択してください
在庫がありません

全額PayPay(残高)払い&LINEと連携で 内訳
5%獲得(91円相当)

ログインして確認

JA大井川 取組内容

まとめ

JA大井川は、多様な人たちと関わりながら農業や地域を守る活動を行っています。
関係人口の増加によって“大井川地域”を知り、大切に感じてくれる方が増えています。

	対象者	活動内容	効果
SAVOR JAPAN	インバウンド	地域の紹介	訪日外国人が観光で訪れている
農泊	全国の旅行者	農業体験	この地域ならではの農業を体験し、大井川地域の魅力を感じている
教育旅行	都市の小学生	食育教育	産地や農産物の栽培過程を知り、農業や食べ物に興味を持っている
援農ボランティア	全国の企業 大学サークル	労働力支援	地域課題の解決として、労働力だけではなく提案もある
収穫体験	地域住民	農業体験	植物や土に触れる体験から、農業や食についての関心が高まっている

JA大井川 取組内容

まとめ

【課題】

- ・農家やJAに対して直接的な収入となっていない部分があるため、事業が継続できる仕組み作りが必要
- ・都市の小学生や地域住民・インバウンドなど文化や知識が異なる方々を受け入れるためには受入側の環境整備や柔軟な対応が必要

【方向性】

- ・援農ボランティアは大きな可能性があるので、積極的に受入れをしていきたい
- ・収穫体験は農家とJAにそれぞれメリットがある企画を考え、他の収穫体験と差別化をしていきたい
- ・農泊は、宿泊を伴うと現役農家には負担が大きいため、茶畑の景観の場所貸しなど負担の少ない仕組みでの収益化をしていきたい

ご清聴ありがとうございました。